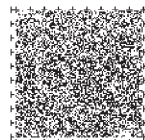


区民健康村 むらづくりの記録

世田谷区・川場村縁組協定 **40** 周年記念



世田谷区 川場村



区民健康村 むらづくりの記録

世田谷区・川場村縁組協定 *40* 周年記念

縁組協定40周年を迎えて

世田谷区長 保坂 展人



昭和56年に川場村と締結した「縁組協定」は、相互理解と信頼関係に基づき「都市と農山村の双方の地域社会の発展のために補完協力関係を構築すること」を基本理念として、40年を経過した今日でも色褪せることなく「交流」が受け継がれております。

この間、区立小学校5年生の移動教室や区民と村民による様々な交流事業を展開するとともに友好の森事業、木質バイオマス発電による自然エネルギー活用など、区と村の互いの政策課題解決に向けた事業にも区と村が連携して取り組んでおります。

交流の拠点となる区民健康村ふじやま・なかの両ビレッジは、開村36周年を迎えて、利用者数は延べ210万人を超え、世田谷区民にとって、川場村が「第二のふるさと」として定着し、親しまれていることを実感しております。

川場村の皆様には、森林整備作業や農業体験では指導者としてご協力いただき、区内のイベント等での川場村物産販売では、新鮮で美味しい農作物を提供いただくなど、40年もの長きに渡りまして、村の皆様の変わらぬご協力・ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

令和4年8月に川場村で開催した40周年記念イベントでは、縁組協定10周年を機に位置付けました「友好の森」に、区民と村民の方々と一緒に「友好の小径」という遊歩道の整備作業を行いました。

こうした取り組みが友好の森事業に代表される自然環境の保全・育成という理念を後世に引き継いで伝えていくものと期待しています。

この40周年を節目としまして、世田谷区と川場村が都市と農山村の持つお互いの強みを活かした連携・協力に取り組み、区と村の絆をさらに深め、人と人とのふれあいによる新たな交流事業をすすめてまいります。

結びに、これまで健康村事業を支えていただきました皆様、ならびに本記念誌の編集にあたりご協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

令和5年3月

縁組協定40周年を迎えて

川場村長 外山 京太郎



時が経つのは早いもので、昭和56年に世田谷区と川場村が縁組協定を締結してから40年が経過いたしました。

都市と農村の交流において、これほど長く内容の濃い関係を築いている事例は全国的に見ても稀であり、交流事業の成功事例として注目されております。

これもひとえに世田谷区民、川場村民はもとより、これまで交流事業に関わった多くの関係各位のご尽力とご支援、ご協力の賜物と感謝申し上げます。

40年の長きにわたり積み上げてきた交流事業は、ふじやま・なかの両ビレッジの利用をはじめ、移動教室等の子ども達の交流や、里山自然学校等の各教室、自然エネルギー活用による発電事業、世田谷区内での川場村物産展開催など多岐にわたります。特に、昭和61年から本格的に始まった移動教室は、当時川場村を訪れた子ども達が大人になり、その子ども達が参加をするようになりました。交流事業で結ばれた絆は、次世代へと確実に繋がれています。

区民の「第二のふるさと」づくりを更に推進するためには、相互の信頼を基盤として、それぞれの地域社会の発展のために努力しあうことが必要であると考えます。

これまでの交流で積み上げてきた実績を踏まえつつ、共有の財産である川場村の自然環境の保全及び育成を継続していきます。そして、時代とともに変化していく社会情勢にも柔軟に対応できるよう、検討を重ねながら皆様とともに創り上げていきたいと考えております。

人口減少、後継者や担い手の不足、鳥獣被害の増加など、川場村は将来に向けての課題を抱えておりますが、縁組協定の「基本理念」に基づき互いの協力を惜しむことなく、互いを補完し、強みを活かし合って世田谷区と川場村の絆を深め、幸福感を共有できるよう努力してまいります。

結びに、これまで健康村事業を支えていただきました皆様、ならびに本記念誌の編集にあたりご協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

令和5年3月

縁組協定40周年を迎えて

(株)世田谷川場ふるさと公社
代表取締役社長 宮林 茂幸



「縁組」40周年ということからルビー婚式を迎えたこととなります。ルビー石は透き通った紅色で、清らかさと誠実さを醸し出す雰囲気があり、俗に「勝利の石」とか「深い信頼と愛情」をあらわすとされています。世田谷区と川場村の40年間にわたっての交流事業は、「豊かで、健康的なふるさと創生」を目的に、当初は両行政の主導で進められましたが、現代では行政・住民・企業・学校などが対等な関係を保ちながらあらゆるセクターが参画する参加型の交流に発展してきています。40年間には様々な衝突や異議などもあったと思いますが、両者の信頼と責任に裏付けられた、愛情あふれる交流の結果として継続してきたものと推測いたします。

地球の人口は、今期で70億人に達し、さらに100年先には100億人までになると報道されましたが、こうした発展の要因は、いうまでもなく「ことば」の開発と「文字」の発明によるとともに、人と人、地域と地域、国と国などの「交流」による発展があったからで、わが国でも古くから山と海、街と山、都市と農山漁村などで多くの交流が展開し、特有の地域文化を形成してきています。基礎的なベースは言語と文字ですが、それに交流という多様な参加活動が加わることによって、地域(集落や村々)を繋げてきたといえます。

とはいえ、ロシアのウクライナ侵攻や各国での内乱などのように健全な交流でないことも少なくありません。地球規模の環境問題や南北問題あるいは都市と山村の不均衡などの課題の中で、2015年に国連は、環境・社会・経済の面で誰一人取り残さずに進めるSDGs(持続的開発目標)を提案し、新たな経済社会の発展を目指しています。その中で交流が重要と位置付けています。

1981年「縁組」当初は、両者を知るという相互理解を深める交流(10年)、そしてレクリエーションや地域振興としての交流(20年)、両者が参加体験する交流(30年)へ、相互が協働する交流(40年)へと進化してきており、その中で「農業+観光による健康的なふるさとづくり」という基本路線は堅持してきています。さらに今後は、そうした基本路線を揺るがすことなく「農業+観光に環境を加えた豊かなふるさとづくり」で循環型社会を目指す協働の交流へと発展するものと期待されます。その特徴は農文化や都市文化の融合です。

これまで地域づくりや地域振興事業は、往々にして新しい科学技術を優先的に組み込んだ計画と具体的な数値目標を掲げながら推進してきています。その展開を全く否定するものではありませんが、「縁組」交流のように、郷土料理や伝承、地域の知恵や技など暮らしの文化を優先し、地域をルビーのように磨きなおし、その後で、さらなる紅玉を得るために新たな科学技術を融合するような交流事業のすすめを期待したいです。特に、Society5.0の時代やコロナ禍のニューノーマルの時代目指す今日、……。

令和5年3月

宣誓書 ～縁組協定締結40周年を迎えて～

昭和56年11月に世田谷区と川場村で「区民健康村相互協力に関する協定」を締結して、今年で40年を迎えた。

世田谷区は、区民健康村を拠点にした区立小学校の移動教室や交流事業を通じて、区民の「第二のふるさと」づくりを進めてきた。「友好の森」事業による森林保全活動や、東日本大震災を契機にした「再生可能エネルギー」への取組みなど、川場村の地域資源を活用した事業を進めている。

川場村は、「田園理想郷」を目指し「農業プラス観光」に林業を加えて、環境に配慮した誰もが住みやすいむらづくりと農林業を守る取組みを推進している。

移動教室や交流事業は、2020年に世界規模で大流行した新型コロナウイルス感染症により、中止を余儀なくされたが、ふるさとを想う世田谷区民と親戚を慕う川場村民の相助の関係はより深まりを増した交流になって、川場村の恩恵や交流の大切さをあらためて認識した。

縁組協定40周年を迎え、世田谷区と川場村の熱意ある深い想いにより積み重ねてきたこれまでの交流が多くの方々に支えられてきたことに感謝し、これからも住民同士、自治体同士が力を合わせて、誠実な信頼関係を堅持し、縁組協定の理念を次世代に継承するため、以下の内容を推進し、今後も未来に誇れる交流を続けていくことをここに宣誓する。

1. 私たちは新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて、「with コロナ」時代に合わせた生活様式の下で、新たな交流による文化・価値を創造していきます。
2. 人口減少社会を見据えて、気候危機や災害対策など一自治体では解決できない様々な地域の課題に対して、都市部の世田谷区と農山村部の川場村の強みを生かした連携を一層強化し、持続可能な地域社会の実現を目指していきます。
3. 芸術、スポーツ、学術など世田谷区の特長ある資源を活かした多様な文化交流を一層発展させるとともに、川場村の生活・文化・歴史を通じた多彩な交流事業の継続と、美しいふるさとや田園理想郷を体験する新たな交流を深め、健康交流の郷づくりをすすめます。
4. 「第二のふるさと」づくりの原点である村の豊かな自然環境や美しい田園風景は、農林業の活動により維持されている。これらを守るため相互に協力し多様な事業を展開していきます。
5. 友好の森事業の理念に基づき、区民と村民の共通理解のもと森林環境の保全・整備を推進することで、木材の有効活用を促進すると同時に災害に強い自然環境づくりに取り組みます。
6. 次代を担う世田谷区と川場村の子どもが、相互の理解と友情を深め、豊かな感性と健全な成長を育む交流の機会を創出します。
7. カーボンニュートラルやSDGsに配慮した交流をすすめ、共助による安心・安全なふるさとづくりをすすめます。

令和3年11月28日

目 次

第 1 章	世田谷区と川場村の交流	7
第 2 章	縁組協定 40 周年記念事業（令和 2 年度～ 4 年度）	21
第 3 章	区民健康村むらづくりのあゆみ	33
第 4 章	区民健康村施設 （ふじやまビレジ・なかのビレジ）	47

